

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:産業科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		部局予算の組み替えにより大学予算の14.2倍のRA予算を確保し、JSPS特別研究員採用への支援、国費外国人留学生の受け入れ、特任研究員の雇用等の方策により、博士後期課程学生への経済的支援を積極的に行ったことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性が高く意欲的な計画として、グローニンゲン大学との連携を強化し、グローニンゲン大学が推進する「データサイエンスを活用したマテリアルサイエンス研究」を推進したこと、国際連携研究ラボを通じた国際的な研究連携交流を推進したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		産研インキュベーション棟の充足率を昨年度以上の90%台の高水準に維持しており、共同研究部門は年1件のペースで順調に設置され現在3件と過去最高水準にあること、また、産研テクノサロンをはじめアウトリーチ活動を活発に実施していることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員一人当たりの競争的資金（科研費以外）の採択件数について、積極的に取り組むことで実績を非常に大きく伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。 また、常勤教員基礎データ入力率について、前年度に引き続き、100%を達成していることが評価できる。</p>
